



こどもも参加年末パトロール

ゆり北

第163号 (15期第9号)

発行・光が丘パークタウン

ゆりの木北自治会

東京都板橋区赤塚新町

3-32-4-403

電話03(3938)9181番

発行責任者 吉 柳 俊 孝

死角に注意を 年末パトロール報告

12月21日(土)30日までの10日間、パトロールを例年の通り多数の方の参加で無事終えることができた、ありがたいございました。特に、風邪が完治しないながらも元気な声で「火の用心」を呼びかけてくれた吉田姉弟は皆勤賞ものです。ご苦勞様でした。

今回はホームレスが2号棟北自転車置き場、1号棟ゴミ置き場に居て退去させましたが、パトロールを実施しなると、又居つく可能性もありますので、死角になる場所は近辺の方で注意して見て、もし、発見されれば自治会役員に一報して下さい。又、周辺で猫にダンボールの家や餌を与えている人からダンボールを片づけようとして、抗議されることがありましたが、動物愛護と周辺美化、衛生、安全問題等、次元と考える方の違いがあるので今後の課題となるでしょう。

駐車関係では、常習は3台程度で来訪者用駐車スペースがないので止むを得ずが殆どと考えられます。

但し、緊急時には連絡がとれるように、訪問先の住戸番号・氏名、電話

世にあふれる娯楽、種々のカルチャー・スクール。遊ぶうと思えば、何でもあり、学ぼうと思えばいつでも。いそがしい現代人に一服の清涼剤、心のやすらぎを考えると、無い智慧を搾ってみるものなかなか名案は浮ばない。仕事の合間をぬって企画実行するもの、参加者は減少する傾向にある。内容が今市なのか日光の手前、ケッコウというわけにはなかなかゆかない。平場のお宅であれば、垣根越しに声をかけあったりもできるが、団地においては鉄

地域の輪は顔を知ることから

け合わなければならぬのはご近所同士ではないだろうか。何が起きても互いに信頼できる関係をつくるためには顔を知り、名前を知ることから始めなければなりません。細かい

番号等の表示を徹底するように、居住者が来訪者に責任をもって、指導して下さい。

合計(延べ)	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	日	一九九七年末夜間パトロール集計
	(火)	(月)	(日)	(土)	(金)	(木)	(水)	(火)	(月)	(日)	(曜)	
	7	8	8	8	8	7	6	9	7	9名	参加人員	
18	10	14	8	17	9	4	12	14	10台	不駐車数		
※116台	12号棟タイヤ・バッテリー放置				1号棟ゴミ置場 ホームレス		10号棟南放置バイク			2号棟北ホームレス	特記事項	

スコップあります。

おだやかな正月気分で過ごしたのもつかの間、一月八日(木)の昼から降りはじめた雪は、九日(金)の朝までに二〇センチを超える大雪になり、交通も大混雑になりました。ゆり北団地でもけやきをはじめ植栽が真白に雪化粧して水墨画のようになりました。

しかし、凍りついた雪道は、転倒などの事故も起きます。自治会役員を中心に八日の晩から、雪かきが行なわれました。九日の朝も六時前から除雪が行なわれ、団地内では一応歩きの不便を感じない程度になりました。十日(土)には十二号棟の空中広場―診療所や児童館の利用者が多い―の階段や橋、広場の除雪も行なわれました。除雪に参加された方々のご苦勞に感謝申し上げます。

自治会初仕事は雪かき

りましたら、防災倉庫の鍵を開放しておきますので、ご自由に使用して下さい。使用後は戻して下さい。破損、紛失もありますので買い増しもする予定です。



久しぶりの大雪でした

自転車整理は二百台

二百台

十二月十日(日)恒例の年末大掃除が行なわれました。各棟から多数参加者があり、一時間程でみちがえる様に綺麗になりました。

終了後には五号棟集会所前で、お汁粉と甘酒で懇談の輪が出来ました。並行して行なわれた自転車整理では二一〇台余の自転車と七台のバイクがありました。

自転車整理は十一月三十日に行なわれた荷札つけから始まり、シールや記名のないもの、長く放置してあるものに荷札をつけました。大掃除当日までにそのまゝになっていたものを十一号棟に集積しましたが、記名のあるもの、95シールのあるものについての取扱について、参加者のなかで意見が分かれました。自治会としては、所有者の自己責任を追求

編集後記

- ◆今年は長野オリンピックとサッカーのワールドカップの年です。気持ちだけはもう選手と一緒にです。(Y・T)
- ◆寅年です。トレード補強でタイヤがガスを面白そう。頑張り。Gファン(H・U)
- ◆正月二日に初山行・奥武蔵、九日は松涛美術館の木喰展とN響と、あ雪かきもありました。(T・K)
- ◆暮れにひいた風邪が治らず寝正月! 体力づくりを真剣に考えた。(Y・N)
- ◆新年特集号印刷所のミスで二頁、三頁が入れ違い。



板橋区に引き渡されます。

有意義に利用したい広場 アンケート調査報告

昨年十二月に行いました中学校予定地の有効利用についてのアンケートの結果をお知らせします。

回答者数 百六十通、年代別内訳は下表のとおりです。

一、跡地全体の利用としては、どのようなものを望みますか。の問いに対し、四十代・五十代層で「公園または防災広場」を選ぶ人が多かった。その他の自由意見では、若い世代では、「スポーツ広場・青少年施設・駐車場」などをあげ、年代が高くなるにつれ、「特養老人ホーム、デイサービスセンター、有床診療所、ケアサービス付住宅、公衆浴場、図書館、外来用駐車場」など、高齢化に対応できる施設への要望が高かった。「ホームレスの収容施設」を作ったという声もあった。

回答者数

	20代	30代	40代	50代	60代	70/80代	合計
男 性	1	2	15	16	20	3	57
女 性	2	11	36	23	14	10	96
男女重複			3	2	1	1	7
合 計	3	13	54	41	35	14	160

二、ここにつくられる公共施設としては、どのようなものを望みますか。の問いでは、「幼児から老人までみんなが気軽に使える複合施設」を望む人が多かった。「区役所の出張所」が遠いので、近くにあったらよい、との声に日頃不便に思っている方が多いのも実感できた。

三、その施設には、どのような部屋（室）があるとよいですか。の問いに一番多かったのは、「リハビリ機能のあるデイサービス室」で、次いで「会議・催し物ができる集会場、喫茶室、ダンスや卓球・バドミントンができる多目的ホール、小さな図書館」と続き「高齢者が利用できる風呂」も相当数あった。

その他の意見では、若い世代では「室内プール、シャワールーム、トレーニングルーム、リサイクリング」など、年代が上がると、「宿泊施設（ダイケア）、給食サービスのできる調理室、保健・栄養士の相談コーナー、子どもと老人が共に楽しめるおもちゃ室」などがあげられた。

四、その施設の運営は、どこがやるとういのですか。の問いには、「区立区営」でと答えた人が多く、次いで「区

立で法人経営」「区立で区民の管理」が同数あった。

その他の意見の中に、「住民の管理」「地域住民の会」という声もあった。

自由意見の欄に書かれた事柄は、どれもが「この地域でよりよい生活を」という思いにあふれたものでした。その一部を紹介します。

＊当団地も高齢化が進むことだと思います。身近に老人ホームがあると安心です。

＊日常的には、社会的弱者が安心して暮らせて、地域の中でコミュニケーションをはかれる場。災害時に防災施設転用となる工夫をする（風呂、調理施設）。

＊原っぱのままでもいい。もう半分は保育園・老人デイサービスセンターの複合施設で、いつでも賑やかに少年寄が過ごせたらいいと思う。

＊今後の問題は、急増する高齢者と急激な若年層の減少。現在ある緑を守りつつ、この二つのテーマで検討をお願いします。

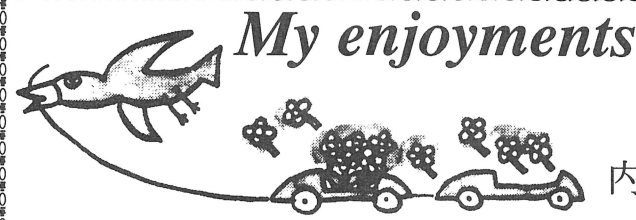
＊これからは条件が許さかぎり、建物ではなく皆が集える公園を作るべきだと思う。緑と光のあふれるゆりの木を作りましょう。

＊身体障害者、高齢者の施設は、できるだけ近い所にあった方がよいと思います。

＊ハコばかり作ってもムダ。緑地として残すこと。でも夜間利用できる施設なら板橋区には欠けているのであってもよい。

＊財政難の区で管理するより、運営を多目的に実現する途を持てるようにした方がよいと思う。高齢化しているが、元気なご老人が主体となるような運営が望ましい。利用料をきちんと徴収し、現実的なものにした方がよい。

＊映像の世界に魅せられ、今なお、一つ一つの場面が、シルエットで蘇ってくるほど忘れられない作品のひとつです。



内田 政江

My enjoyments

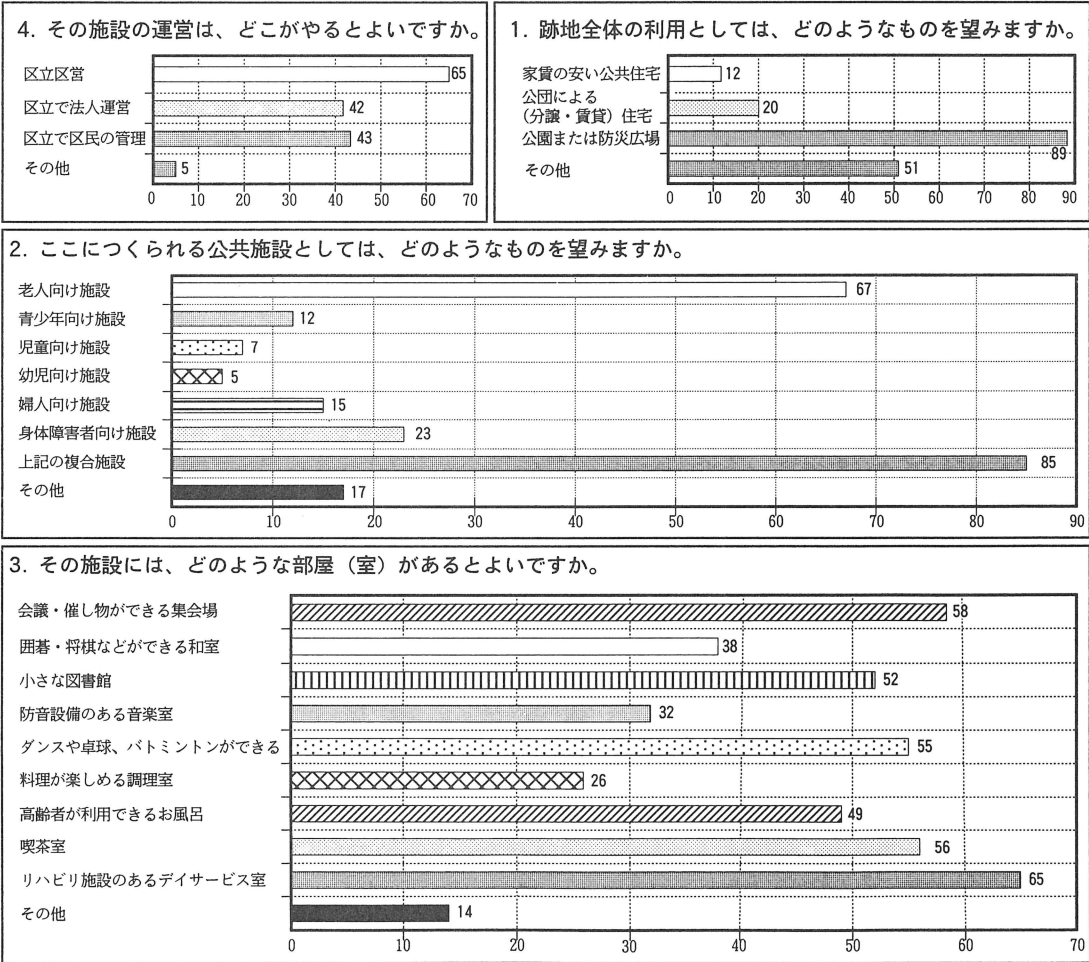
今では、年に数本しか見なくなった映画なのですが、一時期、月に四、五本見ていた頃のお話をしましょう。

その頃、私は職場新聞（全国紙）の文化欄を担当していて毎月、原稿を書いていました。主に、本と映画の紹介記事でした。

さて、ここから私なりの映画観賞の楽しみ方ははじまりです。

まず、限りある時間の中で有効的に数多くの映画を見るため、映画館の密集している地域を選びます。そして、上映時間を入念にチェックし、一本見終わると次の映画館へとハシゴして、一日中、映画漬けです。

二つの条件を満たしてくれるのは、私の経験から池袋と有楽町界隈でしょう。有楽町にきたなら銀座まで足を延ばしてみませんか。シネスイッチ銀座で映画を見たあと2Fの「オールドムービー」に立ち寄ってみてはいかがでしょう。店内には、往年の名画が上映されています。昔は、壁一面のスクリーンが今では8mmに縮小されています。



三が日が終わると後悔の念にとりつかれる。毎年のことである。元日が近づくにつれ、その年の行いを省み、新たな年に向け誓いをたてる（立派だ！）。勤勉な節度ある暮らし、妻の事を常に第一に考える日常（私は理想の夫だ）。

けれども、蓋を開けると、二日酔いで目覚め、そしてそのまま日が暮れる。今年こそは、と何度思ったことだろう。そんなわけで、今年は心に固く誓った。飲み過ぎない。

さて、大晦日。

妹夫婦が上京して

いける口だ。『まだ、これがいけなかった。』

通り、頭をかかえる元旦をむかえた。元旦と言うのは、おとそで朝をむかえる。伝統をないがしろにしてはならない。かくして再び「熱かん一丁」の世界になる。飲んでいると時の過ぎるのは早い。気が付けば朝になっている。親戚回り、来客。やっぱり飲むしかないのだ。これも日本古来の習わしサ。平成十年。この年は仕事始めが一日遅い（私の業種では）。おかげで一日、飲んだくれる時間が多かった。まあ、来年は慎んでお正月をむかえよう。それにつけても、日本は平和である。

（とくめい）

私のお正月

来た。妹ムコは大晦日だし...」

かくして、例年